

性感染症について知ろう！～梅毒とエムポックス～

梅毒

○梅毒とは？

梅毒トレポネーマという病原体による細菌性の感染症です。主に、性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。感染後、約1週間～3ヶ月の潜伏期間を経て発症します。

○症状

梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができたり、痛み、かゆみのない発疹が手のひらや体中に広がる場合があります。

症状が消えても治ったわけではなく、人に感染させる可能性があるため、早期発見・早期治療が重要です！

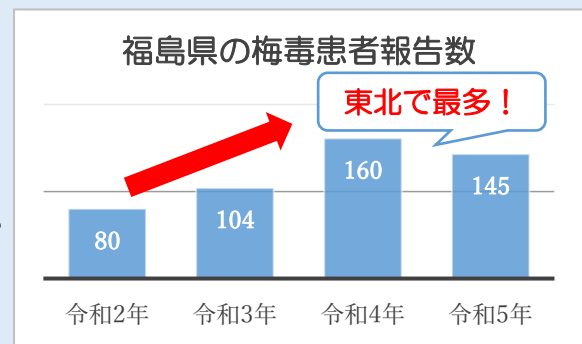


○日本における感染状況

近年、日本国内における梅毒の報告数が増加しています。

福島県内では、令和4年に過去最多となる160名の患者が確認されました。

今年も患者数が増加傾向であるため、引き続き感染拡大に注意が必要です。



参考：令和5年11月19日時点
(福島県感染症動向調査週報 第46週より)

○予防方法と検査、治療について

- ・不特定多数の人との性的接触は避けましょう。
- ・発熱や倦怠感、発疹等の症状がある方は、医療機関（婦人科や泌尿器科）に電話相談してから、早めに受診してください。
- ・梅毒は、早期に治療をすれば治すことができる病気です！
- ・感染してしまった場合は、ご自身だけでなく、大切なパートナーも感染している可能性があるため、パートナーと一緒に検査を受けましょう！

※県北保健所では「HIV・梅毒検査」を匿名・無料で受けることができます。感染不安がある方は、感染症予防チーム（024-534-4113）までご相談ください！



エムボックス

○エムボックスとは？

エムボックスウイルスによる感染症です。

感染した人や動物の皮膚の病変（発疹等）・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む。）や、感染した人と近くで対面し、咳やくしゃみなどの飛沫に長時間さらされた場合、感染した人が使用した寝具等に触れた場合等に感染します。

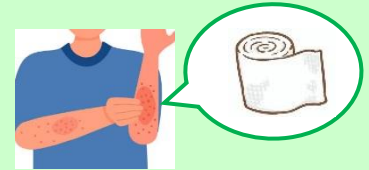
○症状

発熱、頭痛、リンパ節の腫れ、筋肉痛などが1～5日続き、その後発疹が出現します。通常、発症後2～4週間で自然に治りますが、発疹が完全に治まり、カサブタが落ちるまでの間は、他の人に感染させてしまうおそれがあります。そのため、他の人との接触は可能な限り避けるようにしてください。



○日本における現状

日本国内では、令和4年7月に1例目の患者が確認されて以降、患者数が増加しています。令和5年11月17日時点で222例の患者が報告されています。福島県においては、現時点でエムボックス患者の発生報告はありませんが、今後も、海外からの来訪者や海外に行く人の増加に伴うエムボックスの感染拡大に注意が必要です。



○予防方法と治療について

- ・不特定多数の人との性的接触は避けましょう。
- ・欧米などに滞在歴があり、帰国時に発疹などの症状がある場合は、最寄りの医療機関や保健所に相談しましょう。医療機関を受診する際は、マスクの着用や発疹部位をガーゼなどでおおう等の対策をしましょう。
- ・エムボックスに効果のある治療薬やワクチンの接種は日本国内では流通していません。そのため、症状に応じた治療が行われます。

※感染症の感染拡大防止のために、1人ひとりが意識して予防しましょう。

- ・咳やくしゃみの症状がある人との接触時は、マスクを着用しましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いや、アルコール手指消毒剤を用いて手指消毒を行いましょう。

参考：厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp>)、福島県ホームページ (<https://www.pref.fukushima.lg.jp>)、国立感染症研究所 (<https://www.niid.go.jp>)



発行日：令和5年11月27日

発行元：福島県県北保健所 医療薬事課 感染症予防チーム

住所 〒960-8012 福島市御山町8-30

電話 024-534-4113

ホームページ：検索キーワード

福島県県北保健所

